

昭和四十八年八月十四日

四十九年度科学技術重工業施策提案

衆議院議員
科学技術特別委員会理事

前田 正男

一、原子力について

(1) 原子力平和利用と急速に推進して来たが此處に至つて世界的な資源エネルギー問題、山安全環境、公害問題等を初め国内的にもこれ等に伴ふ立地、安全等困難性をより更に従来の超党派的協力にも乱れが出て此處に基本的に考慮すべき段階に来た

(2) 従来終末にわたるエネルギー確保の観点から研究開発利用を強力にすすめる政治的にも応援して来たが、開発利用の推進は順調に延びて居り、今迄同様の助成を続ける事として、この際政治的な重点を比較的に退けている

考慮すべき段階に來た

(2) 從來將來にわたるエネルギー源確保の観点から研究・開発・利用を強力にすすめる政治的にも応援して來たが、開発利用の推進は順調に延びて居り、今迄同様の助成を続ける事として此の際政治的な重点を比較的退けている。安全環境監視・立地及研究・廃棄物処理等に置き、思い切った打開策を計る必要がある。

(3) 安全環境確保にあつては、国民一般の理解を得る爲

イ 審査機関を原子力委員会より半私立的な審査の結果は原子力委員会の議決を得るものと、常勤委員を置く更に専門委員会も附屬させる

ロ 原子力委員会及安全環境審査機関の事務は原子力局の下に専任次長及必要部課を置き